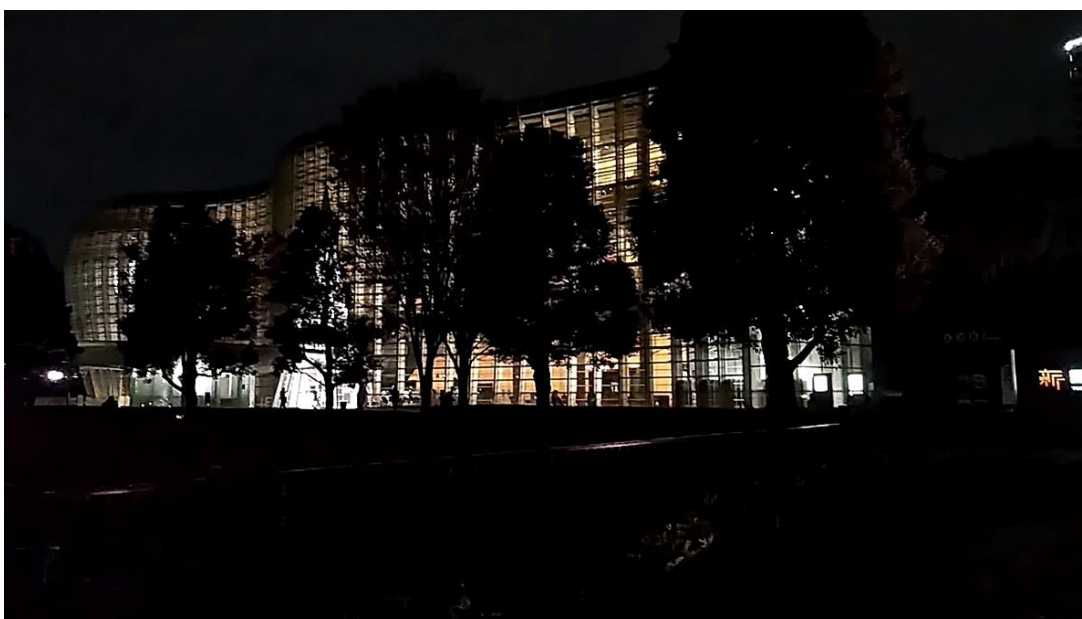


1 2月次報告

丸山正雄

・ ブダペスト～ヨーロッパとハンガリーの美術400年～

日本とハンガリー外交関係開設150周年を記念して東京の国立新美術館にて2019.12.4-2020.3.16の期間中にブダペスト国立西洋美術館とハンガリー・ナショナル・ギャラリー所蔵130点が展示されることになりました。つきましては、両国に所縁のある団体及び個人が12月5日に招待され19:00～19:30開会式、19:30～21:00内覧会及びレセプションが開催されました。皇族からは高円宮承子女王がご臨席されてお祝いのお言葉を述べられました。また、大手自動車メーカーのスズキ（株）からは鈴木修会長も参加しておりました。このスズキ（株）の顧問として長く関係されていたのが関榮次元ハンガリー大使です。スズキ（株）がハンガリーワインを輸入するようになり、日本でも欧州で人気のトカイワイン（白）やエグリ・ヴィカヴェール（雄牛の赤い血・赤）などが気軽に飲めるようになりました。関榮次元大使は、外務省退任後村井正直先生と昵懇となり、1999年北海道浦河町で行われた第3回国際ペトゥ学会の実行委員長をお引き受けくださり、その後セルプわらしべ開設時に乗馬療育センター顧問（他に元上野動物園園長の増井光子先生、東京大学農学部教授の林先生）になってくださいました。



国立新美術館

建築家の黒川紀章（1934～2007）さんの設計。奥様は女優の若尾文子さん。1986年に建築界のノーベル賞といわれるフランスの建築アカデミーのゴールドメダルを受賞しました。海外ではクアラルンプール国際空港やゴッホ美術館を手掛け、この国立新美術館が最後の作品とのことでした。



開会式（国立新美術館 1F エントランス）

国内外から多くの方が来られていました。報道（TV・新聞）関係者も多く、ごった返しの状況でした。

頂いた今展覧会の作品図録はわらしべ会図書館においてあります。

- ・ 狐の死

12月16日（月）の午後からわらしべ園女子棟側の伐採した樹木（隣地造成の要請でやむなく伐採）を片付け中、畑作業をしていた阪井ひでこ（調理員）さんから、畑に狐が死んでいるといわれ、死体確認後、わらしべ園の後町さんと一緒に墓穴を掘り埋葬しました。馬の墓の並びです。敷地内の花を供花し、線香をあげました。第二わらしべ園の日中スタッフ秋山さんがいうには、3～4日前に元気で見かけたとのことでした。死因はわかりませんが、まだ若そうな感じでした。野生動物の死は感染症の疑いも有ったりするので市役所に届け出なければならなかったかとも思いましたが……。付近のお花で葬送しました。

狸や狐といった日本古来の動物が身近なところにいるということは、それだけ自然環境に恵まれているということでしょう。但し、周囲を見渡しても、山続きというところはありません。私が入職した昭和58年ごろは、園の裏山から遠く京田辺市まで歩きました。勿論、第二京阪や山手幹線ありませんでした。狸や狐の領域を冒したのは我々人間なのです。昨今は、アライグマが飛躍的にその数を増やし、生態系が変わりつつあることは報道で周知のとおりです。当法人も目撃情報が寄せられたので圓道さんが市役所から生け捕り用カゴを取り寄せ、2匹捕獲しました。野生動物との適度な距離感を構築できるような環境に配慮した営みをしたいものです。合掌。

以上